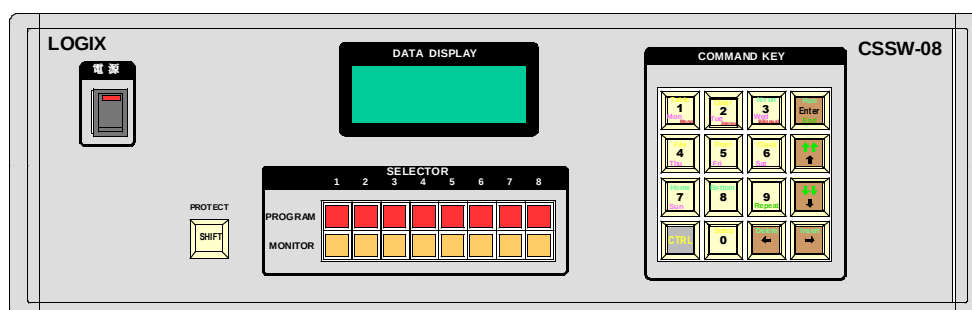


自動送出装置 CSSW-08 Ver.1.0

操作説明書



LOGIX

目次

基本的な動作の説明	1
AV セレクター	1
画面説明	2
タイムテーブルデータ入力	2
Week データの入力	3
Time データの入力	3
ソースデータの入力	3
タイムテーブル最後の記述について	4
(1) 最後まで実行したら 1 行目の時刻になるまで待つ	4
(2) 最後まで実行したら 1 行目を実行する。	4
タイムテーブルの編集	5
①カーソル移動	5
②挿入、削除	5
③タイムテーブル入力を終了する	5
実行	6
①タイムテーブルの 1 行目の時刻からスケジューラを実行する。	6
②タイムテーブルの任意の行から実行する。	6
現在時刻の設定、変更	7
初期設定 (Setup)	9
② A-Mode Set (変調器制御モード設定)	10
③ Week 有効/無効	11
④ No-Video Jump	12
データクリア (Clear)	13
タイムテーブルデータ	14
ヒストリーデータ	14
No-Video データ	14
タイムテーブル保存、読み出し (File)	15
プリントアウト(Print)	16
①タイムテーブルデータの印刷	17
②その他のデータの印刷	17
その他の機能	18

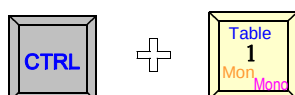
時計校正	18
アラーム出力	18
機器の接続	18
注意事項	19
プリントメニューと CLEAR メニュー	19
タイムテーブル参考例	19
WEEK について	19
タイムテーブルに複数のスケジュールを記述し、実行する。	19
保存ファイルを利用する	19

電源ON/OFF

電源スイッチをONすることで電源が入ります。

キー操作について

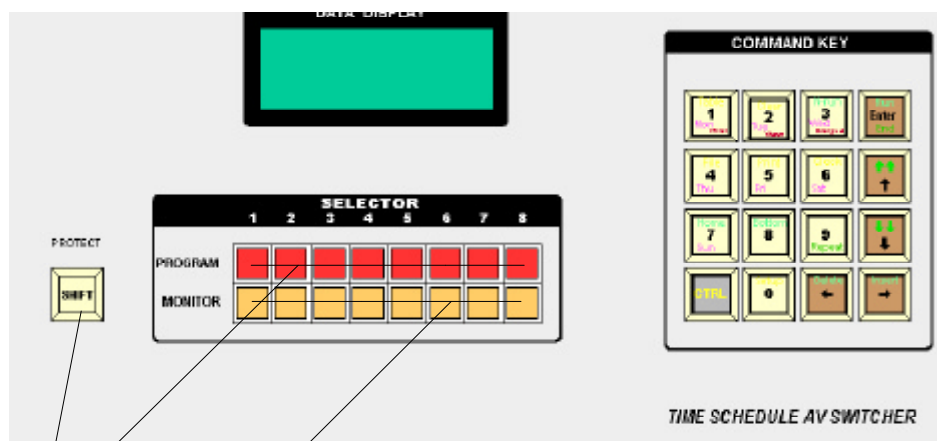
操作の中で、キーを押しながら別のキーを押す操作があります。たとえば、CTRLキーを押しながら、数字の1キーを押す場合は下記のように記述します



基本的な動作の説明

1. 初期設定。この作業は導入時に行います。
2. タイムテーブルを入力。
3. 実行。

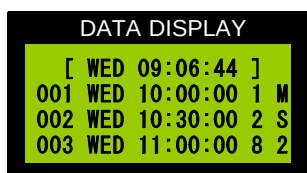
AV セレクター



このキーを押すとMONITORを切り替えます
SHIFTを押しながらこのキーを押すとプログラムアウトを切り替えます。

画面説明

動作状態や入力データは前面パネルの液晶ディスプレイに表示されます。



この画面が通常（実行状態）の画面です。1行目に現在時刻を表示します。

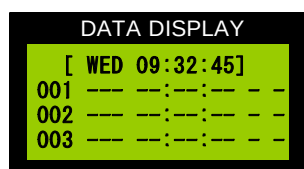
タイムテーブルデータ入力

タイムテーブル入力では番組の開始時刻、ソース番号、変調器制御コードを入力します。

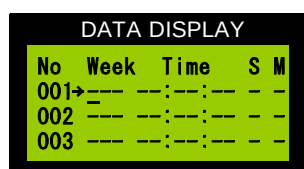
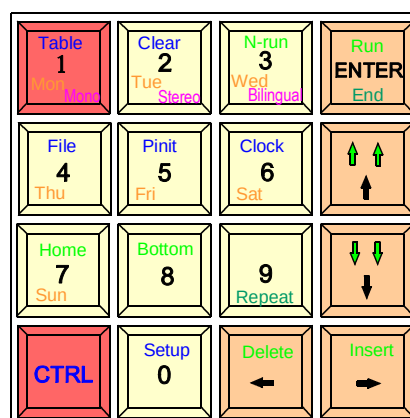
設定により、週データを入力しないようにすることもできます。ソース番号は1－8の数字で入力します。変調器制御コードはあらかじめ設定した値が自動的に表示されます。

カーソルを移動して変更することが可能です。

まず、実行状態（1行目に現在時刻を表示している状態）から



を押します。

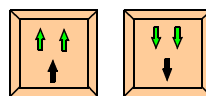


画面はタイムテーブル入力モードに変わり、行番号の右側に「→」カーソルが表れます。このカーソルは上下の矢印キーで動かすことができます。上下の移動はデータが入力されている範囲内しかすることができません。一番最初は下側への移動はできません。

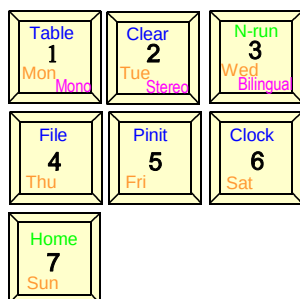
また WEEK データの下にアンダーカーソルが現れます。このカーソルは左右の矢印キーで動かすことができます。

この二つのカーソルの指し示すデータの入力変更が可能です。

矢印は



キーで動かすことができます。押し続けるとキーリピートが働きスクロールします。最大行は999です。



Week データの入力

ここに入力するデータ週のデータです。月曜から、日曜までのデータを次のキーで入力します。

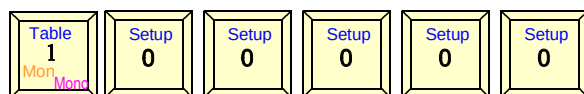
DATA DISPLAY				
No	Week	Time	S	M
001	MON	--:--:--	--	--
002	--	--:--:--	--	--
003	--	--:--:--	--	--



キーを押すと次のように表され、カーソルは TIME のところに移動します。

Time データの入力

番組の開始時刻を1-0キーで入力します。ここで、10:00:00 と入力してみます。



と続けて入力します。

DATA DISPLAY				
No	Week	Time	S	M
001	MON	10:00:00	--	--
002	--	--:--:--	--	--
003	--	--:--:--	--	--

ソースデータの入力

カーソルはソース「S」のところに進みます。

ここではソース番号を指定します。
ソース1を例として入力します。



を押します。

DATA DISPLAY				
No	Week	Time	S	M
001	MON	10:00:00	1	M
002	--	--:--:--	--	--
003	--	--:--:--	--	--

カーソルは2行目の WEEK のところに進みます。

このとき 変調器制御フィールドには左図のように M と表示されます。これは変調器制御をモノラルにするという意味で、このデータは Setup-2:A-Mode で設定されたデータが自動的に表示されます。表示されたものと違う設定にする場合は、カーソルを M フィールドに移動し次のキーを押します。



モノラル (Mと表示される)



ステレオ (Sと表示される)



音声多重 (2と表示される)

タイムテーブル最後の記述について

タイムテーブルの最後まで実行した後の動作を指定します。

次の2通りの指定ができます。

(1) 最後まで実行したら1行目の時刻になるまで待つ

DATA DISPLAY				
[WED 09:32:45]				
001	WED	10:00:00	1	M
002→	WED	10:30:00	2	S
003	WED	11:00:00	E	

イベントが2行しかない簡単なスケジュールですが、このスケジュールでは、3行目の WED 11:00:00 になった時点で1行目の時刻がタイマーセットされます。A/Vスイッチャーは2行目の状態を保持します。実行行を示す矢印カーソルは消えます。ソースフィールドの「E」はENDの意味で



を押すと入力できます。

(2) 最後まで実行したら1行目を実行する。

DATA DISPLAY				
[WED 09:32:45]				
001	WED	10:00:00	1	M
002→	WED	10:30:00	2	S
003	WED	11:00:00	R	

このスケジュールでは3行目の WED11:00:00 になった時点で1行目を実行し、ソース1に切り替わります。この場合、1行目の時刻は無視されます。後はスケジュール通りに運転します。ソースフィールドの「R」はRepeatの意味で



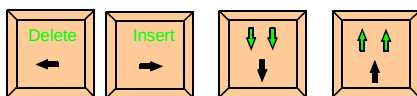
を押すと入力できます。

注意

いずれの方法もエンドレスにスケジュールを実行することができます。どちらも記述しないときはタイムテーブルの頭に戻ることができませんので、必ず時刻と「E」もしくは「R」を記述してください。

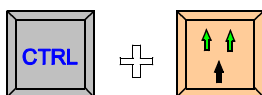
タイムテーブルの編集

①カーソル移動

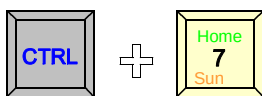
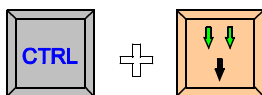


キーを押すとカーソルが移動します。

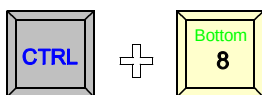
上下のキーは押し続けるとリピートが働き、スクロールすることができます。



CONT キーと上下キーを同時に押すと100行ずつスクロールします。

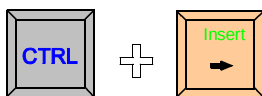


カーソルが1行目に移動します。

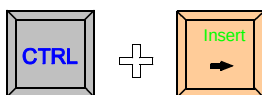


カーソルが入力されている最下行に移動します。

②挿入、削除

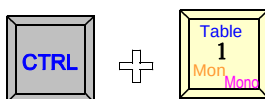


カーソル行に1行空行を挿入します。



カーソル行を1行削除します。

③タイムテーブル入力を終了する



を押します。実効状態に影響を与えずにタイムテーブル入力モードを終了します。

スケジューラ実行はタイムテーブル入力から行います。

実行するときは、次の実行操作を行ってください

実行

タイムテーブルの入力が終了したらスケジューラを実行することができます。

DATA DISPLAY				
[WED 09:32:45]				
001	WED	10:00:00	1	M
002	WED	10:30:00	2	S
003	WED	11:00:00	8	2

実行操作はタイムテーブル入力モードから行います。



を押してタイムテーブル入力モードに入ります。

実行には次の2通りがあります。

①タイムテーブルの1行目の時刻からスケジューラを実行する。

タイムテーブル入力モードから

DATA DISPLAY				
No	Week	Time	S	M
001→	WED	10:00:00	1	M
002	WED	10:30:00	2	S
003	WED	11:00:00	8	2



を押します。

1行目が現在時刻表示に切り替わります。

DATA DISPLAY				
[WED 09:32:45]				
001	WED	10:00:00	1	M
002	WED	10:30:00	2	S
003	WED	11:00:00	8	2

タイムテーブルの1行目の時刻がくるまでこの状態で待機します。

AVスイッチャーは現在の状態を保持します。

②タイムテーブルの任意の行から実行する。

タイムテーブル入力モードに入り、実行したい行へカーソルを進めます。

例として2行目から実行します。カーソルを2行目に移動します。

DATA DISPLAY				
No	Week	Time	S	M
001	WED	10:00:00	1	M
002→	WED	10:30:00	2	S
003	WED	11:00:00	8	2

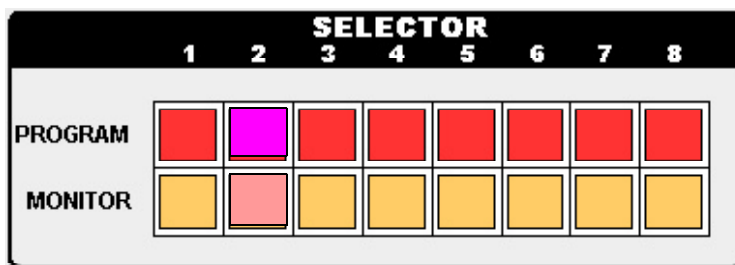
ここで



を押します

DATA DISPLAY									
[WED 09:45:20]									
002	→	WED	10:30:00	2	S				
003		WED	11:00:00	8	2				
004		WED	12:00:00	4	M				

同時にA Vセレクターもソース2に切り替わります。



このラインに切り替わる

画面は実行状態に戻ります。このとき→カーソルのある行が実行行です。
次に実行されるスケジュールは矢印カーソルの次の行です。

現在時刻の設定、変更

実行状態（1行目に現在時刻を表示している状態）から

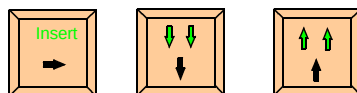


を押します。

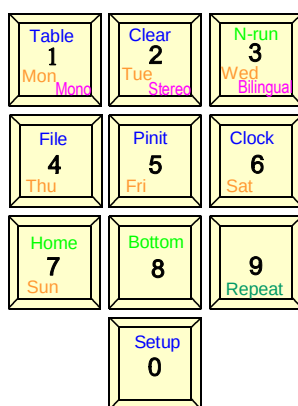
Table 1 Mon Mond	Clear 2 Tue Stereo	N-run 3 Wed Bilingual	Run ENTER End
File 4 Thu	Pinit 5 Fri	Clock 6 Sat	↑↑ ↑
Home 7 Sun	Bottom 8	9 Repeat	↓↓ ↓
CTRL	Setup 0	Delete ←	Insert →

年の下にカーソルが表れます。カーソルは

DATA DISPLAY									
==== CLOCK SET =====									
Date=	1999-03-20								
Week=	SAT								
Time=	10:11:12								



で移動できます。



時計データの入力は数字キーで行います。
曜日は1－7キーで行います。



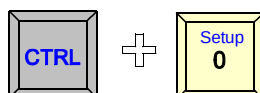
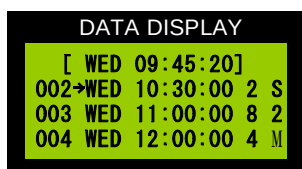
を押すと CLOCK 設定モードを終了し、
時計がカウントを始めます。

(ヒント)

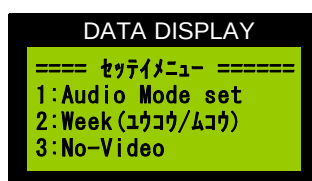
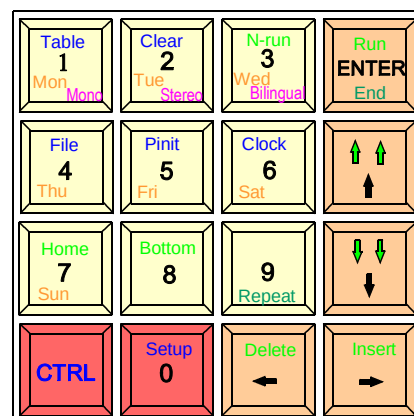
この装置には内蔵時計を外部から校正する機能があります。装置背面パネルの校正端子をショートする事で内部時計の30秒校正をすることができます。外部校正時計が接続されていないときには、この端子にスイッチを取り付けるだけで簡易校正が可能になります。この場合、時報と同時にスイッチを押すと内部の時計が0秒に校正されます。

初期設定 (Setup)

実行状態（1行目に現在時刻を表示している状態）から



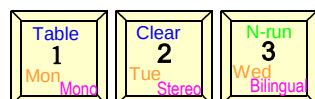
を押す。



左図の SETTING 画面が開きます。

ここで設定する項目は

- ①各入力ごとの変調器制御モード設定
- ②タイムテーブル入力時、週入力をするかしないか。
- ③実行中に映像信号なしを検出したときの動作

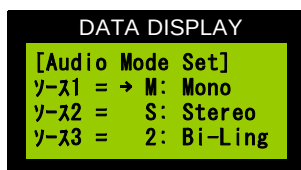


で選択します。



を押してオーディオモードセットを行います。

① A-Mode Set (変調器制御モード設定)



この項目では各入力ごとに、変調器を制御するモードを設定します。設定内容は次の3種類です。

M: MONORAL (モノラル)

S: STEREO (ステレオ)

2: BiLingual (音声多重)



でカーソルを移動します。データを変更するには、変更するソースにカーソルを移動します。そこで



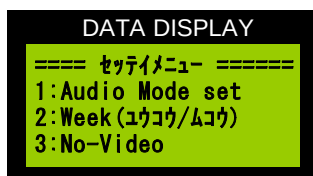
もしくは



を押すとデータの変更が可能です。

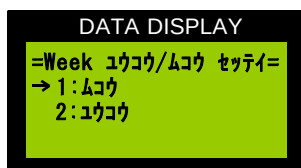


で入力を終了します。



を押します。

② Week 有効／無効



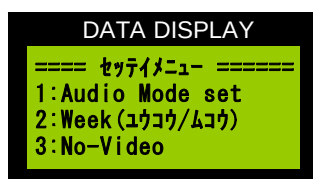
でカーソルを移動してデータを選択するか



を押して選択します。



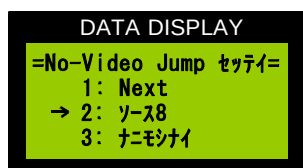
で入力を終了します。



を押します。

③ No-Video Jump

実行中に映像無信号を検出したときどのように動作するかを設定します。



- (1) 現在実行している次の行に切り替える
- (2) ソース 8 に切り替える
- (3) なにもしない。



でカーソルを移動してデータを選択するか



を押して選択します。



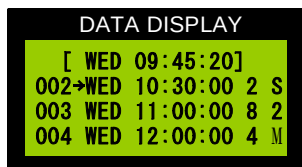
で入力を終了します。



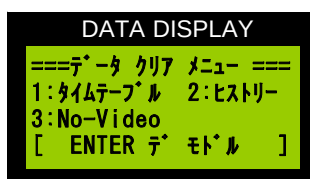
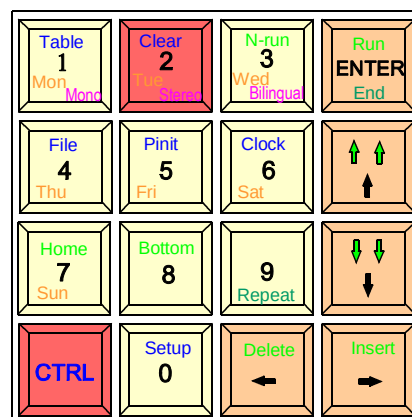
で入力を終了します。

データクリア (CLEAR)

実行状態（1行目に現在時刻を表示している状態）から



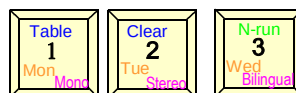
を押す。



左図の CLEAR SELECT 画面が開きます。データクリア項目は

- ①タイムテーブルデータ
- ②ヒストリー（実行履歴データ）
- ③ NOVIDEO(NOVIDEO 履歴データ）

クリアしたい項目のキーを押します。



なにもクリアしないときは



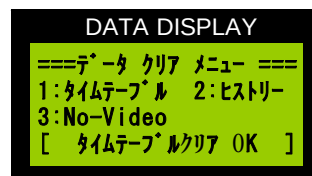
を押すと実行画面に戻ります。



を押します。（タイムテーブルクリア）



ピッピッピッと音がでてクリアします。



クリアを完了すると左図のように表示し、



すぐにデータクリアメニューに戻ります。

終了するときは を押します。



タイムテーブルデータ

タイムテーブルデータは999行入力できます。タイムテーブルクリアをすると999行すべてクリアします。後述するタイムテーブルのホゾンファイルはこの作業ではクリアされません。

ヒストリーデータ

タイムテーブルによって実行された履歴を過去100イベント分記憶しています。そのデータをクリアします。

No-Video データ

タイムテーブル実行中に映像信号がなくなったときその状態を100イベント記憶しています。そのデータをクリアします。

タイムテーブル保存、読み出し (File)

現在表示しているタイムテーブルのデータを2つ分記憶するファイルを持っています。保存は現在のタイムテーブルデータを999行すべて保存します。また読み出しも999行すべて読み出します。タイムテーブルをクリアした後で保存をするとそのファイルはクリアされた状態になります。

DATA DISPLAY	
[WED 09:45:20]	
002→WED 10:30:00 2 S	
003 WED 11:00:00 8 2	
004 WED 12:00:00 4 M	

実行状態（1行目に現在時刻を表示している状態）から



を押します。

Table 1 Mon	Clear 2 Tue	N-run 3 Wed	Run ENTER End
File 4 Fri	Pinit 5 Sat	Clock 6 Sat	↑↑ ↑
Home 7 Sun	Bottom 8 Sun	9 Repeat	↓↓ ↓
CTRL	Setup 0	Delete ←	Insert →

DATA DISPLAY	
タイムテーブル ホゾン/ヨミダシ	
1 : ホゾン	
2 : ヨミダシ	

左図の画面が開きます。

ここで、保存か読み出しかを選択します。

保存の場合は



読み出しの場合は



を押します。

DATA DISPLAY	
== タイムテーブル ホゾン ==	
1: ホゾン ファイル1	
2: ホゾン ファイル2	
ENTER: モデル	

保存を選択すると左図のようになります。

次にどのファイルに保存するかを指定します。

ファイル1の場合は



ファイル2の場合は



を押します。

DATA DISPLAY	
== タイムテーブル ホゾン ==	
1: ホゾン ファイル1	
2: ホゾン ファイル2	
[ファイル1に ホゾン シマシタ]	

ファイル1を選択した場合は左図のようになります。

保存作業は一瞬で終わり、実行画面に戻ります。



ファイル読み出しも保存と同様の操作をします。

どちらのファイルに保存するかを指定します。

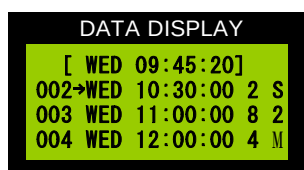


ファイル2を選択した場合左図のようになります。

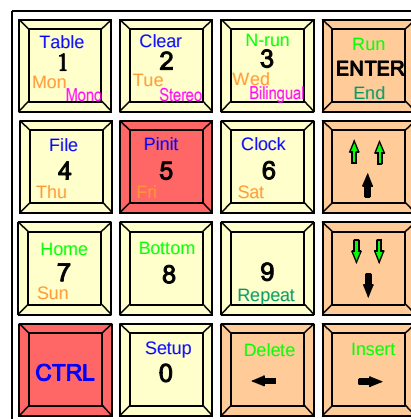
読み出しは一瞬で終わり、実行画面に戻ります。

プリントアウト(印刷)

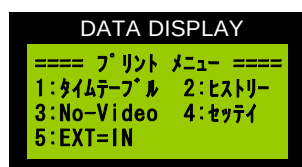
実行状態（1行目に現在時刻を表示している状態）から



を押す。



（注意）プリンタに紙がセットされて、印刷可能状態になっていることを確認してください。

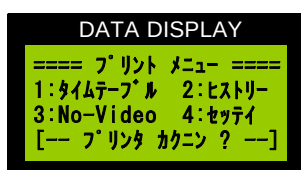


左図のプリントメニュー画面が開きます。

印刷する項目は

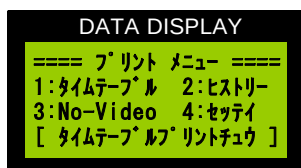
- ①タイムテーブルデータ
- ②ヒストリー（実行履歴データ）
- ③ NOVIDEO(NOVIDEО 履歴データ)
- ④セッテイ（初期設定のデータ）
- ⑤ Ext（EXT 入力端子に入力された履歴データ）

①タイムテーブルデータの印刷

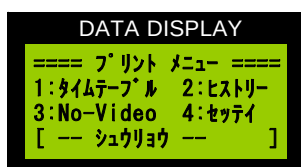


キーを押すと、タイムテーブルの印刷を始めます。

もし、プリンタが準備できていないときや、ケーブルがはずれていた場合は左図のような表示になり、印刷はできません。

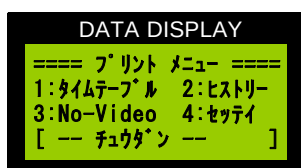


プリンタへデータ転送中は左図の表示になります。

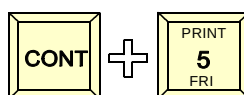


印刷が終了すると、左図の表示になります。

*印刷終了とはプリンタへのデータ転送が終了することで、実際の印刷が終了することではありません。プリントバッファの小さいプリンタでは転送に時間がかかることがあります。



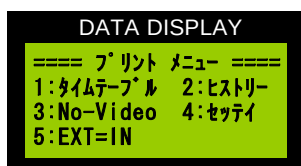
印刷を途中で止めたいときは



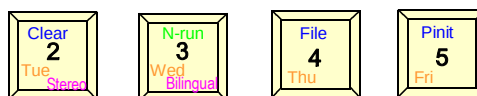
を押すと転送を止めることができます。

ただし、この操作は転送されたデータに対しては働きません。この場合はプリンタ側を操作して印刷を中止してください。

②その他のデータの印刷



そのほかのデータ印刷は、印刷したい項目のキーを押します。



印刷メニューを終了するときは



を押します。

その他の機能

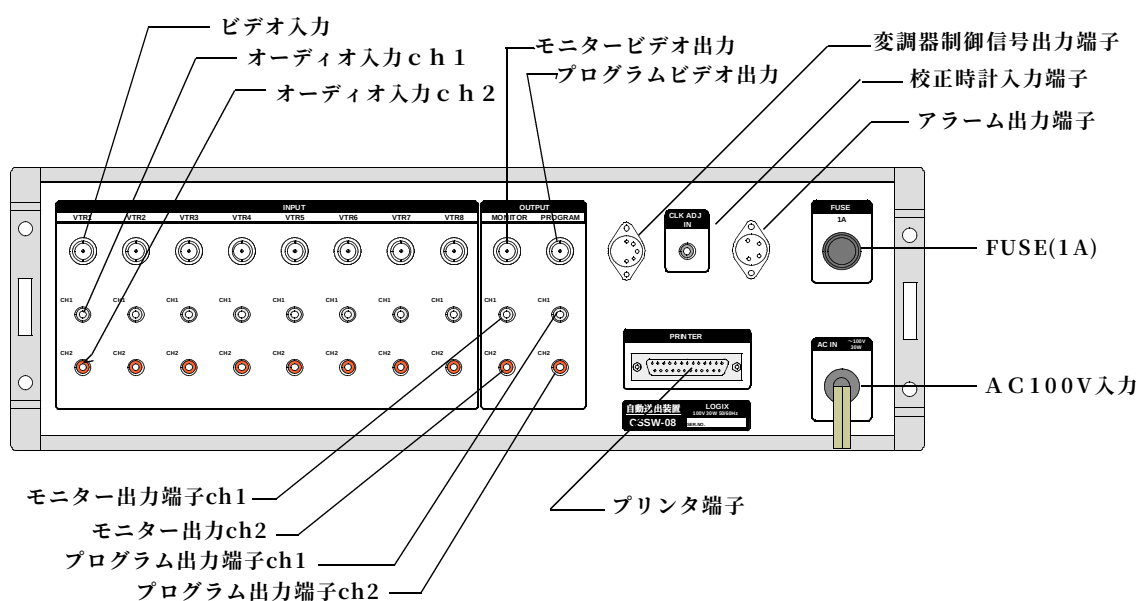
時計校正

リヤパネルの時計校正端子(RCA-PIN)をショートすると30秒校正を行います。
ここに校正用時計を接続します。

アラーム出力

自動送出実行中に出力の映像が途切れた場合、アラーム音を発生します。このときアラーム出力端子に接点信号を出力します。

機器の接続



注意事項

プリントアウトメニューとCLEARメニュー

プリントアウトメニューと CLEAR メニューは内容がよく似ています。プリントアウトするつもりで CLEAR を行くとそのデータは削除され元に戻すことができなくなります。プリントアウトする際には注意してください

タイムテーブル参考例

WEEK について

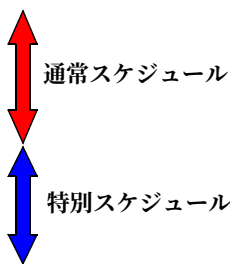
WEEK を使うときは1週間単位のプログラムを組むことができます。たとえば、月曜から金曜までと土曜、日曜のパターンが違う場合などは WEEK を入力するようにして、週間単位のプログラムを組みます。また、毎日同じパターンの時は、WEEK を使わないように設定すると入力の手間が省けます。

入力は1週間分だけとか、1日分だけでなく、999 イベント（行）記述できますので1週間分入力した後にその次の週を入力すれば、順次実行できます。WEEK を使用しないモードも同じです。

タイムテーブルに複数のスケジュールを記述し、実行する。

通常使用しているスケジュールパターンのほかに、別パターンで動作させたい場合、次のようにします。

TIME TABLE				
No.	Week	TIME	S	M
001	SUN	10:00:00	1	M
002	SUN	10:30:00	2	M
003	SUN	11:00:00	3	M
004	SUN	11:20:00	4	M
005	SUN	11:40:00	1	M
006	SUN	11:55:00	R	
007	SUN	10:00:00	1	S
008	SUN	12:00:00	2	2
009	SUN	14:00:00	3	S
010	SUN	16:00:00	2	M
011	SUN	22:00:00	E	



通常使用しているスケジュールの下にデータを入力します。左図を例にすると、通常は1から6行を実行していますが、特別スケジュールの7-11行を実行するときは7行目を強制実行します。

そして、特別スケジュールの最後まで実行すると通常スケジュールの1行目に戻ります。

特別スケジュールはいくつ記述してもかまいません。

保存ファイルを利用する

あらかじめ違ったパターンのタイムテーブルを保存ファイルに入れておき、必要なときに読み出して使用する。この場合2つのファイルしか保存できません。上記と併用するとよいでしょう。

